

鶴見区区政会議 令和元年度第1回こども教育部会議事録（要旨）

1 日 時 令和元年6月17日（月） 19時00分～20時46分

2 場 所 鶴見区役所 4階402会議室

3 出席者

（委員）

前川部会長、猿渡副部会長、久貝委員、田中（泰）委員、中田委員、藤本委員、
宮川委員、山口委員、米島委員、渡邊委員

（市会議員）

原田議員

（区役所）

長沢区長、武富副区長、中村教育担当課長、松井子育て支援・保健担当課長
大川教育担当課長代理、市橋子育て支援担当課長代理、仲田総務課担当係長、
吉岡総務課担当係長、藤本保健福祉課担当係長、泉谷保健福祉課担当係長、
岡田保健福祉課担当係長、鈴木保健福祉課担当係長、貴田政策推進担当課長

4 議 題

- 1 令和元年度鶴見区区政会議の進め方について
- 2 平成30年度鶴見区取組み実績・評価について
- 3 その他

5 議 事

（1） 議員紹介

（2） 長沢区長開会のあいさつ

（3） 武富副区長あいさつ

（4） 平成30年度第3回全体会における主な意見の紹介

➤ 委員からの質問・意見等

- 子育て支援室は18歳未満すべての児童を対象としていることが記載されたチラシを見てよくわかった。

- ここに記載されている対応方針は、実際にできているのか。
 - この部会所管の2点について、対応している。

- 災害時には水とトイレが問題になる。以前、区政会議で井戸を掘ってはどうかという意見を述べたが、対応はどうなっているのか。
 - 昨年9月3日の区政会議全体会で意見をいただき、10月の部会で区の対応状況を説明したが、再度検討する。
今年度、災害時にプールなどの水を浄化する器具を配備する予定である。

(5) 令和元年度鶴見区区政会議スケジュール（案）の説明

- 委員からの質問・意見等
 - 特になし

(6) 平成30年度鶴見区の実績と評価について説明

◇ 安心して子育てできる環境づくり

- 委員からの質問・意見等
 - 放出など遠方に住んでいると、区民センターで開催されるイベントなどに参加しにくい。以前にあった福祉バスを復活してもらえないか。
 - 福祉バスは検証の結果廃止となった。イベントなどについては区民センターだけでなく区内のさまざまな場所で開催していきたい。
 - 同様の要望があり、数年前の区民まつりで2ルートにバスを走らせたが、結局、乗車人数が少なかったため1回で終了した。
 - 区役所内でパネル展示等の常設コーナーはあるのか。また、放出駅前などに情報発信の場を作ることはいか。
 - 区役所内でも情報コーナーなどに設置している。また、イオンモール鶴見緑地や地下鉄の各駅などにも情報発信のコーナーがある。
 - つるみっ子ルームの場所が表示も含めてわかりづらい。
 - 子育て支援室での相談対象は18歳未満ということであるが、イベント内容が就学前に偏っているように思う。
 - 現在の乳幼児期に特化したところから少しずつ幅を広げていきたい。
実際に相談が多いのは5歳児であるが、次に7歳児が多く、7歳から9歳は性格行動の相談が多い状況である。
 - 子育て講演会を年2回開催し、1回は就学前を、もう1回は小学生、中

学生をターゲットにする内容で実施できないか。

- 子育てサロンに高校生や大学生にボランティアとして参加してほしい。また、愛 Love こどもフェスタの開催曜日と時間の検討が必要だと思う。
 - 愛 Love こどもフェスタの検証・検討は実行委員会で行う予定。

☆ 社会教育の支援、学校教育の支援

➢ 委員からの質問・意見等

- 学校協議会に一般の保護者の参加が少ないように思う。委員募集に工夫が必要である。
 - 条例や関係規則に則り、委員として任命されることになっているが、工夫の余地があるか確認する。
- 人権啓発推進セミナーやヒューマンシアターに参加したが、本当によかった。もっとたくさんの人に参加してもらえるような広報周知が必要である。
 - 引き続き様々な機会を捉えて、より多くの人たちにご参加いただけるよう広報周知に努めたい。
- 広島の被爆ピアノを使って全国で演奏されている。また、ストリートピアノなどの取組みもあるのでそのようなことも取り入れていく等人権啓発について音楽を切り口に取り組んでほしい。
 - 音楽と合わせての人権啓発も含め、今後も様々な切り口での取組み展開を考えていく。
- 生涯学習は年配者がするというイメージがあるので、広報つるみの特集（4月号）の際、表紙がこどもだったので新鮮だった。
- 生涯学習は、男女問わず、またこどもから高齢者まで気軽に行える取組みであり、世代間交流やこどもたちへの還元を視野に入れた活動も行っているところである。
- 昨日、吹田の事件があり、学校の対応についてのメールが来ていたが自分は気づいていなかった。昨日のメールを見た保護者がどれだけいるのか、メールが確認できなかった人や、そもそもメール登録していない人への対応も、アンケートをとるなど検討してみれば、今後の対応に活かせるのではないか。
 - 所管局である大阪市教育委員会に伝える。
- 各クラスにどれだけ発達障がいやグレーゾーンの子どもたちがいるのかというデータはあるのか。
 - 各学校からの報告があるので把握している。
- 発達障がいサポーターの予算について増額の可能性はあるのか。

- 担当として各学校のニーズをきちんと把握し、予算増額に向け前向きに検討する。
- 発達障がいではないが、簡単なルールや常識が身についていない要支援のこどもがトラブルの原因になっていることが多く見かけられる。発達障がいサポーターの予算を増額し、担任の先生を助けてほしい。
- 発達障がいサポーターの人材は豊富にあるのか。
 - 発達障がいサポーターは各学校で探してもらっている。人材が豊富な学校もあるため、学校間での調整も行われている。また、広報紙に募集記事を掲載するなどしている。
- 軽微なルールが守れないなど、ケアが必要なこどもは増えてくる。総合的な支援に広げて「発達障がいサポーター」という名称を「教室サポーター」などの名称にした方がいいのではないか。
- 昨年 7 月の部会で園庭や講堂等のない保育所に関してグラウンドや区内施設等代替場所の提供はできないかとの意見に対し、区役所は協力すると対応方針が示されたが、その後の対応はどうなっているのか。

(7) 原田市会議員助言

(8) 事務連絡